第37号（2023年　12月号）

あらき通信

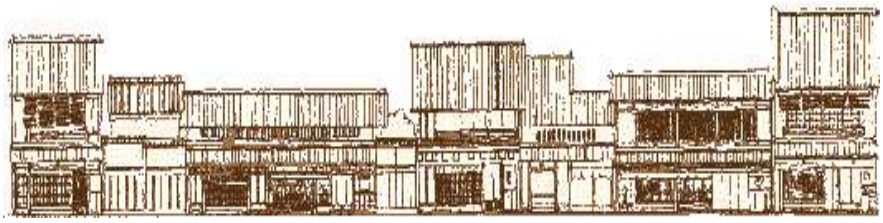
２０２３年　１２月　２０日 発行

(株)アラキ工務店　　編集・発行　荒木　勇

〒 615-0906 京都市右京区梅津高畝町 52-2

Tel 075-882-8668　　www.kyoto-araki.jp/

Fax 075-872-0223　　info@kyoto-kozai.com



色んな所に出没するようにしています♪

できるだけ、子どもさんたちにも町家のこと、大工のことを知ってもらおうと思い、いろんな取り組みをしています。町家が減り、大工のなりても減っている中での小さな抵抗です。

８月４～６日、みやこめっせにて開催された「こども科学博2023」に当社会長の模型や鉋屑などを展示。９月２３～２４日、同じ取組をイオンモール京都桂川でも行いました。模型を見ながら昔の実家の話をされたり、鉋屑の匂いをかいだり・・・（木を触ったことない子もいて時代が変わりました）。

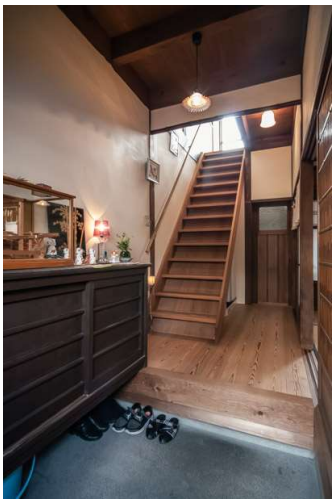
また１０月２２日に梅小路公園で開かれた「建ちゃんまつり」に築山棟梁と新人の工藤さんが参加。子どもたちに”ミニ椅子作り体験”をしていただきました。築山棟梁は、夜や日曜日に倉庫に残って材料作り。頭が下がります。

嬉しい一言

先日、私にOさんから、「どうしても家を手放さなくてはいけなくなった」とご連絡を受けました。
改修工事をしたのは16年ほど前です。

当時、お知り合いの西陣織をされている方から、『廃業するので、家を買わないか？』と相談を受けられたOさん。いくつかある建物の中で一番住宅になりやすく、車が置けそうな家を気に入り、購入されました。大将軍付近で借地権付の建物です。

このお住まいにも古材をご提案しました。まず玄関下足箱の丸桟戸と天板。天板には床脇地板を使用。建具は一部のサッシ・玄関戸・トイレ・襖入口以外は、中古建具を入れました。和室間の欄間を中古欄間に合わせて小壁を作りはめ込みました。



古材を使った玄関

小さくても、南側に作庭をご提案し、さらに、北側には駐車場を設け低木を植えました。季節を感じるようになり、風が南北に通るようになりました。南庭は１坪しかありませんが、とても気持ちの良いものになったと褒めていただきました。つくばいなどの組石は、別のお客様から不要になった古石の寄せ集めです。中古ガラス戸越しに、石組や板塀のある庭が眺められるようになりました。

Oさんからは、どうしても手放すことになったことについて、「とても愛着があり残念です。ぎりぎりまで、住みたい」と、お言葉をいただきました。私も、「大切にお使いいただける方に引き継いでいただければ」と思いました。

購入先が決まるまでは、(株)いえ屋さんのHPで、「天神川に面す京町家」で、見ることができます。是非ご覧ください。

荒木　智

←つくばいのある１坪の坪庭
改修当時の古い手水鉢などの石を再利用しています。

板塀の修復工事

板塀が一部傾いてきたので直して欲しいとのご依頼をいただきました。新築とは違い、反りや風化による癖のある木材に、新しく真直ぐな木材を組み合わせていくという難易度の高い作業です。

現況

竣工①

竣工②

部分的に直すこともできたのですが、柱の足元や庇を受けている部材が腐っていたり、銅の樋に穴が開いていたり、瓦の並びが悪かったりということもあり、大掛かりとなりますが瓦・樋・左官工事を含めた全体的な修復工事をご提案させて頂きました。

躯体修理の基本方針は、腐っている部材の取替（部分取替）を行い健全な状態に戻すことです。特に各柱の足元は全体的に傷んでいたので取替えも考えましたが、他の残す部材との取合いが複雑なため足元の根継ぎを行うことで進めさせて頂きました。その他には壁面の板材や腰板等も傷んでいたので化粧材は全て取替とさせて頂きました。

施工①

着工前にしっかり現場調査を行ったつもりでしたが、瓦をめくると実は腐っていたといった箇所が多く見受けられました。今しか直せないということをお客様へご説明し、下地からきっちりとやり替えることで進めさせて頂きました。

丁寧に部材を解体していくと、昔の大工さんが新築時にどのような工夫をされていたのか、手間をしっかり掛けて建てられていたことに触れることができ、大変興味深くみさせて頂きました。これからまた何十年と長く使って頂けるよう見守らせて頂こうと思います。

施工②

米沢　和也

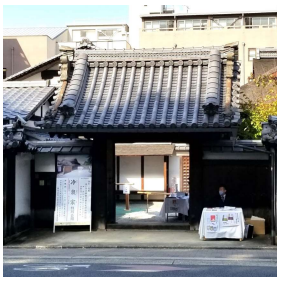
京都非公開文化財特別公開事業

昭和40年（1965年）より、毎年、春と秋の一定期間に開催されている京都非公開文化財特別公開事業。今年で59回目を迎える秋の公開では市内15カ所の文化財が公開されました。

文化財愛護の普及啓発事業の一環として、非公開の文化財を公開する事により、市民はもちろん広く国民全体に文化財愛護への関心を高める事を目的として実施。

来年で世界遺産登録30周年を迎える『古都京都の文化財』。登録されている17社寺のうち、上賀茂神社、下鴨神社、金閣寺、東寺、高山寺、西本願寺の6寺社が公開。なかでも、2018年の台風21号で大きな被害を受けた高山寺金堂及び釈迦如来坐像が初めて一般公開された。また、京都三名閣（金閣・銀閣・飛雲閣）のひとつ西本願寺飛雲閣（国宝）も9年ぶりに公開。

2020年に国宝に指定された「八坂神社本殿」も初公開。日本で唯一の「祇園造」を内部から神宝と共に見学できる機会はとても貴重。住宅建築では、現存する唯一の公家住宅である「冷泉家」も参加。3日間と非常に短い公開期間ではあるが、住宅はもちろん、香炉や着物などの調度品も見どころのひとつ。


冷泉家

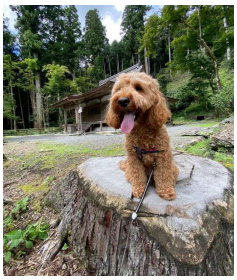
また、今回の事業とは関係がないが、数年ぶりに公開されたのが国宝「東求堂」。慈照寺

（銀閣寺）内に持仏堂として建てられた建築は国宝「銀閣」と同様に室町時代の遺構。堂内には現存する最古の書院造である「同人斎」を有し、現在の和室（座敷）の源流であり「四畳半」の起源を見る事ができる。

京都には、簡素で品格ある優れた木造建築群が多数存在する。しかし、その多くは非公開である場合が多く、京都に住んでいる者でもその存在にすら気づかない事がある（三大茶室のひとつ国宝「蜜庵」などはまず見れない）。

今後もこの事業が末永く開催され、多くの市民はもちろん、海外の人たちにも認知される事業へと発展し、他に類を見ない日本の優れた木造建築群の価値を世界に広める一助となること、また割高な拝観料に京都市民割引が採用される事を祈念しております。

小野　敏明



我が家の一員
コッカプー

準 棟 桟 冪

『じゅんとうさんぺき』と読みます。

京町家作事組による京町家用語集によると、「お寺に準じる小屋組」の意味だそうです。

大きな京町家のトオリニワやハシリニワの火袋（ヒブクロ）に稀に見られる、側繋ぎ、牛梁、小屋束、貫などで構成される小屋組のことをこう呼びます。どちらかというと、構造的な必要性というより、当時の大工さんの腕の見せ場的な所だったようです。

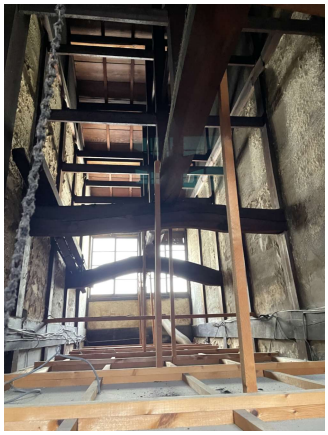
京町家の改修をご依頼いただくことが多い弊社でも、あまりお目にかかることができないこの準棟簗冪のある町家を、このたび、改修させていただく機会に恵まれました。

昭和初期に建てられた表屋造りの町家です。以前の改修でトオリニワ部分の床を上げてキッチンとして使用されていたのですが、「昔の姿に戻したい」というお施主様の思いから、床を撤去して土間に戻すことになりました。

キッチンには天井が貼られていたのですが、建物の規模や年代からして、もしやと思い、天井の点検口から覗かせていただくと、立派な準棟簗冪があるではないですか！　天井裏のホコリの向こうに格子状の架構が見えた時の感動は忘れられません。合板張りのキッチンの上に、7 m 以上もある豪快かつ繊細な空間が眠っているとは！

ぜひ吹き抜けに戻しましょうということで、壁の合板と天井を撤去し、足場を立て、古い左官壁をこそげ落とし、古材に丁寧に雑巾をかけ、傷ついた柱を埋木して･･･現在は、壁の漆喰の塗り替え作業中です。竣工はもう少し先になりますが、長年の眠りから覚めた準棟簗冪の写真をご覧ください。久しぶりに新鮮な空気に触れ、気持ちよさそうにしているように見えませんか？

改修前の台所



改修前の小屋裏

改修中のヒブクロ

最近は町家を改修したホテルやお店なども増えました。もし大きめの町家で、もし吹き抜けのトオリニワがあったら、ぜひ”準棟簗冪”を探してみてください。昔の職人さんの心意気と、後世に残そうとする今の職人さんの気概が感じられるのではないでしょうか？

長崎　道

大工研修 in 越前

やっとコロナ制限が明け、工場見学ができるようになりました。今回は民家や文化財だけでなく、樹脂加工のフクビ化学工業(株)、鉄骨胴縁の(株)福岡、越前瓦の(株)新谷窯業さんを訪問。

他社を訪ねるといろんなことに気づかされます。各社ともいろんな工夫が！

ホームページに見学の様子を掲載していますので是非ご覧ください。

住まいについていろいろな話　第33回「工程表の書き方」

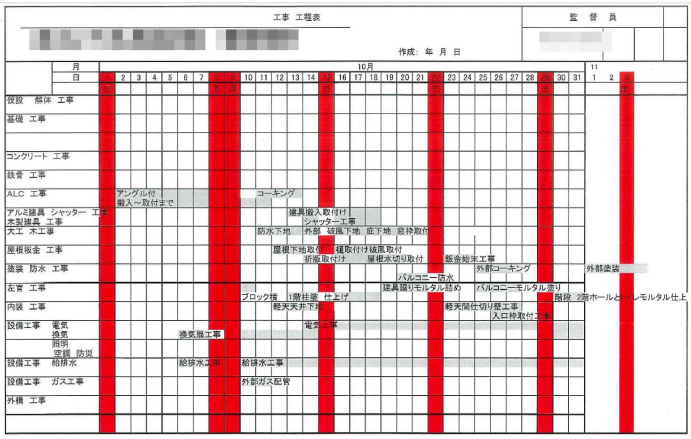
「工程表」といってもあまりなじみがない言葉かもしれません。大切な資料の一つで、工事は概ねこの工程表の日程に沿って行います。一つの工事が終われば、あくる日は違う業者が入り次の工事を行います。言い方を変えれば、ある特定の場所に日替わりで各業者が入って工事を仕上げていきます。これ考えるのが大変なんです。

工事と名がつくと必ず工程表が必要です。大きくて期間の長い工事から、一週間から10日ほどで終わる工事でも必要です。それぞれに書くのは苦労が要るのです。

まず工事全体を把握しなくてはいけません。どのような工事があり、またそれを施工できる業者を考えます。簡単なものもあれば、こんな工事誰が出来るのかわからんということもあります。

例えば、基礎工事。これには、まず地盤調査会社 → 調査の結果で軟弱地盤の場合は地盤改良業者 → 土工業者 → 鉄筋業者 → 型枠業者 → 生コン業者 → 左官業者と工事担当が変わります。あらかじめ基礎のなかに埋め込む配管があれば水道業者や、ガス会社、場合により電気配管も必要であれば電気業者、大きな鉄骨を建てるのであればアンカーボルト設置業者、あとまだ少しありますがメインはこんなものでしょう。

いくつかの業務を兼ねている業者もありますが、それぞれの工事の順番は監督が全て決定します。マアそうは言っても担当者や親方さんたちと日程の協議をしながら「ア～でもないコ～でもないと」言いながら押したり引いたりしながら日程を組み上げていきます。



監督が決めると言っても独断で「こうやれ」なんて言った日には強烈に反発を食らいますので、そこはうまくやらないと。強く出るときも言葉はあくまでも柔らかく、相手の顔を立てながらこちらのペースに乗せて、「ウ～～ん、忙しいけど何とかします」と言ってくれるまで粘ります。コツは誠意をもってあたることです。適当なことを言っても相手は見抜きます。

工程相談中

工程表を作るには工事の順番を決めます。これは監督しかできません。工事内容をすべて理解しないと順番の予定は建てられなく、次にどれだけの日数がかかるか考えます。わかりにくければ直接業者に聞きます。ただ、なかには悪気はないのですが慎重に考えすぎて日数を長めに言う人もいます。"できなければどうしよう"と悩むのはわかります。けれども、そのまま書いていくと工事日程が長すぎて予定日数を大きくはみ出してしまいます。こちらで再度よく考えて縮めます。もちろんいくつか予備日も設定しますがね。

大きな工事の工程表を書くのも大変ですが、短期の工事（例えばお風呂の入替など）もナカナカ気を使います。なぜ気を使うかと言いますと、短期工事は業者の仕事の日数が極端に短くて、場合によっては午前の工事と午後の工事に分けて組むこともあります。それと狭い場所で行いますので1業者が入れば満員で同時に2業者が入れないことも普通です。また、日替わりで業者が入れ替わってきますので、工事の進捗を正確に読めないと翌日まで作業がかかり、次の業者が入れないことにもなりかねません。こうなればその後の業者が全て1日から2日遅れます。業者によっては別の工事と重なってこちらに来てくれないこともあり、大慌てで以後の日程を組み替えて、何とか辻褄を合わせることになります。

正確な工程表なんてなかなかできないので、今でもウンウン頭をひねりながら書いています。しかしこれがうまくいくと工事がスムーズに進み楽になるんですよ～

村上　幸男

『ならまち』について

私は京町家も好きですが、ノスタルジックな地域も大好きです。そのなかでも、今回は『ならまち』の町家についてお話したいと思います。

『ならまち』は東大寺の近くにある元興寺の境内であったところに民家が建てられ、庶民の住みかとなった地域です。古い町並みが今も残るノスタルジックな地域であり、近年特に観光客に人気のスポットとなっています。今も残る町家をリノベーションして住宅、カフェ、雑貨店、ギャラリーとしても活用されていて、お買い物や食事などを楽しめる地域です。

そこに残されている町家は、古くは江戸時代に建てられたものから、大正・昭和時代に建てられたものまで共存している状態です。

『ならまち』の大きな特徴は3つあります。

1つは“間口が狭く奥行きが深い”ことです。

かつて、この地では、税金は「間口が広くなればなるほど高くなる」仕組みになっていました。表通りに面した造りにしたいという思いから税金対策として間口を狭くし、住めるスペースを確保するために奥行きをたくさん取る建て方になったとのことです。

もう1つの特徴は〝奈良格子〟です。

京町家にある千本格子は、1本1本が細く繊細な作りになっていて有名ですが、『ならまち』の格子は法蓮格子ともいい、杉の丸太を縦に半分にしたものを窓に間隔を広げて打ち付けてあります（円形の格子や四角い格子も見られます）。このような太い格子になったのは、昔、町中を自由に行き来していたシカが、角で建物を傷付けにくいようにするためだそうです。

3つめの特徴は、〝庚申さん〟です。

『ならまち』を探索しているとあちこち町家の軒先に”身代わり申”と言う赤いサルの飾り物が複数吊るされているのを見かけます。この”身代わり申(猿)”は“庚申さん”という『ならまち』ならではの信仰から来ており、災いを代わりに受けてくれると言われています。屋根の上に鐘馗さんもいらっしゃるのに、さらに“庚申さん”を吊るすとは用心深いですね。

私の通勤カバンには、家内が『ならまち』で私に内緒で買ってカバンにこっそり付けてくれた”赤くて小さな身代わり猿”が今も大切にぶら下がっています。皆さんも〝庚申さん〟を玄関や部屋に飾って厄除けされてはいかがでしょうか。

ノスタルジックな空間は、心地よく、なにか懐かしいものを感じさせますね。たまには足を延ばし、ランチやお茶に訪れて、過去の思い出を呼び起こすのも素敵だと思います。

嶋林　貴之

若狭大島の鯛釣り

去る11月3日に行ってきました。〝鯛ラバ〟という重りと釣針にビニールを付けた〝ワームネクタイ〟という擬似餌を使った釣り方です。

沖のポイントに7時頃到着、潮流れまずまずですが魚の当たり無し。船長から「ポイント移動します」の声。次のポイントに期待。到着し、仕掛け落とすとすぐにグクっ！　重い！

上がってきたのは40センチを超える甘鯛でした。嬉しい外道です。その後連子鯛、甘鯛がかかり、納竿となりました。

次の日甘鯛を、お造りと松笠揚げにして頂きました。釣人の特権というものです。これからも釣りが出来る自然環境が保たれることを願っています！

足達　宗凡

素敵な景色・風景

最近のスマホは手軽にきれいな写真を撮ることが出来ます。私が撮影した景色・風景を一部紹介させて頂きます。

▶ 写真① 霧ヶ峰富士見台(長野県)

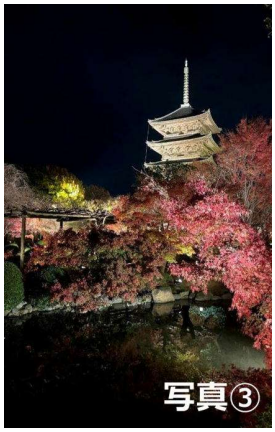
長野県にある草原の高台に位置している展望台です。ここの雰囲気だけでも気持が良いです。

富士山、南・中央・北アルプスと一望できる贅沢で気持ちの良い展望台です。何と言っても人気が多くないので、絶景を独り占めする事が出来ます。この日は天気が良くとても気持ち良かったです。

▶ 写真② ふもとっぱら(静岡県)

静岡県富士山の麓に位置するキャンプ場です。テントをどこに設営しても大迫力な富士山を眺めることができます。車をテントの横に付けることが出来るので、移動がとても楽です。朝一の富士山から現れる朝日を見ながら飲むコーヒーは、絶景と共に絶品です。

▶ 写真③ 東寺(京都府)



京都市東寺・五重塔のライトアップ写真です。11月～12月の期間は紅葉かとても美しい時期です。紅葉ライトアップでは、北側にある瓢箪池を中心とした回遊式庭園・東寺庭園などもあわせて特別にライトアップされます。

瓢箪池に映し出される五重塔は綺麗ですね。今回ご紹介できませんが、永観堂紅葉ライトアップもとても魅力的です。

▶ 写真④ 空庭温泉(大阪府)

大阪弁天町の、とある温泉施設の屋上です。

写真の右奥に見えますのは、足湯スペースになります。館内浴衣を着用しながら足湯に浸かり、庭園の景色を楽しむことが出来ます。

また、庭園中央の大池を挟んで向こう側には、大滝や空庭庚申堂、千本鳥居、庭園の頂上の水洗弁天宮から臨む庭園の景色を楽しむことが出来ます。

以上4つの景色・風景を紹介させて頂きました。まだまだご紹介したい場所があるのですが、また、次の機会にさせて頂きます。有難うございました。

島田　将也

削ろう会 in 糸魚川

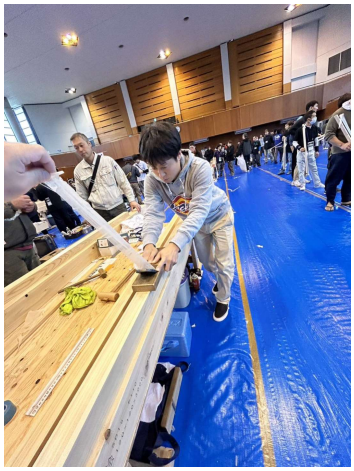
昨年、足達棟梁、牛田先輩が行かれた削ろう会。

今年は僕たちが出場することになりました。練習では、5μまででましたが、1日目は不調。2日目にようやく調子がでました。残念ながら決勝に残る事はできませんでしたが、前回出場した亀岡大会より記録はあがりました。。

大会を通じて、材料の選び方、天候による刃の調整など得るものが大変たくさんありました。次回もし、機会があれば、まだ記録が伸ばせる気がします。

いつもの仕事と違い、なんでも新鮮で、とてもよい経験になりました。

斉藤 優介 / 三谷 拓也



最後に一言

忙しく、職人さんのやりくりがつかず、ちょっとした修理に伺えない状況が続いています。"簡単な事なのに、なんですぐに来れないの？"と、お叱りをいただく事があります。すみません。それでも、辛抱強く待っていただける方もあり、本当にありがたいなと感じています。一同フル稼働で頑張ってます。今後ともよろしくお願いいたします。(でも、お正月は長めに休みます)。

荒木 勇